

会報

2008.2.26

HP:<http://www3.ocn.ne.jp/~koryu/>

Tel:03-3222-4190 Fax:03-3222-4199

〒102-0073 東京都千代田区九段北 1-3-9 第2太陽ビル 301

発行人：生井榮一

中国教育国際交流協会 江秘書長が来日

“携手行動”…国連大学、飛鳥高校を訪問



国連大学学長と江秘書長



生井理事長を囲んで

中国教育国際交流協会江波秘書長、孫家寧アジア太平洋部部長補佐の両氏は1月8日来日し、協会のアレンジ(東京教組・都高教協力)で国連大学、東京都立飛鳥高校を訪問しました。

1月9日、一行は国連大学を訪問しました。訪問目的は、中国教育国際交流協会が国連社会経済理事会において、中国の教育団体では唯一「特定諮問地位」を受けたのを機会に、今後国連大学との交流を強めたいとの意向によるものでした。コンラッド・オスターヴァルター国連大学学長を始め、高橋一生长顧問、マックス・ボンド学長補佐らと情報交換と親密な懇談が行われました。10日は、都立飛鳥高校(高野敬三校長)を訪問し、授業参観を行うと共に、単位制高校の実情と課題などについて活発な質疑応答が行われ、相互理解を深めました。終了後一行は、生井理事長主催の昼食会に出席し、両協会の今後の交流について“携手行動”(共に手を携えて進む)の精神で意見交換を行ないました。

★安東市長、市民も期待★

第二期安東自由大学は8月18日から

日韓教育交流の一環として昨年9月、協会は安東自由大学に参加者を派遣しました。韓国精神文化の中心で、さまざまな儒教文化の神髄に触れるとともに、小中学校を訪問し韓国教育の実情に触れることができました。参加者の感想は、会報14号・安東自由大学特集に掲載されておりますが、現地での反響も大きく、安東新聞の第一面に掲載されました。1月13—

16日、山中常務理事は初岡昌一郎準備委員長と共に第二期安東自由大学視察に赴き、現地で開催に向けての調査・折衝を行いました。(右写真 地元の安東新聞からのインタビューを受け、全面に



掲載されました。安東の歴史・儒教文化・教育を全世界に発信する…「人と人の交流が東アジア全体に」：見出し要約)安東市長からは、在安東の日本人居住者の参加も考えて欲しいなどの要望が積極的に出され、韓国受け入れ側からさまざまな企画が出されました。協会は、韓国との国際教育交流の発展とともに、東アジアのネットワークづくりの一環としても、参加者の期待に応えられるよう今後も努力していきます。

第二期安東自由大学は2008年8月18日から23日までの予定で準備が進められています。コースは、釜山—安東—チリ山—釜山を予定しています。協会としては、各県から計20名程度の参加をお願いするつもりです。5月には参加案内が届くよう準備を進めておりますので、第二期安東自由大学も奮ってご参加ください。

♪♪ 易県の子どもたちに ♪♪

ヤマハ電子ピアノを寄贈

椅子・机も750→870セットに



協会は、河北省易(い)県教育局と宋慶齡基金会の努力を踏まえ、椅子・机の支援を750セットから870セット(120万円相当)に追加変更し、備品は昨年12月河北省易県に到着しました。

また、黒田常務理事(静岡県教組委員長)の働きかけで、ヤマハ楽器並びにヤマハ労働組合(高井委員長)のご尽力をいただき、電子ピアノ 71 台(100 万円相当)が、北京ヤマハから宋慶齡基金会に搬入され、1月に現地に届きました。上記の写真は、基金会の共同プロジェクト担当の毛蓉蓉さんから協会に届けられたものです。机の背には「贈 宋慶齡基金会・日中国際教育交流協会」と記されています。2008 年 10 月に予定されている第14次訪中団では、初めての試みとして中国教育国際交流協会アレンジの北京市内公立学校の訪問と宋慶齡基金会アレンジの易県小学校(北京から3時間)を訪問・交流を予定しています。

こうした教育支援事業は今後も計画されています。皆さんのアイデアやご意見をお寄せください。

ホームページを開設しました

ご覧ください 2008年2月1日より

<http://www3.ocn.ne.jp/~koryu/>

第3回中国人の日本語作文コンクール

協会賞は、劉良策さん(吉林大学)、

章羽紅さん(中南民族大学)に

日中交流研究所(段躍中所長)主催、中国大使館後援第3回中国人の日本語作文コンクールは、12月15日中国広州暨南大学で盛大に開催されました。応募総数は中国全土から1473本。協会は今年度から『日本中国国際教育交流協会賞』(教育賞)を大学生、社会人各1名に5万円ずつを支援することを決定し、当日会場で授与式が行われました。協会賞は吉林大学の劉良策さん『行



動違えど気持ちは同じ-「何の用事」から見た中日友好』(写真上)と中南民族大学外国語学部日本語科の章羽紅さん『もったいながり屋のAさん』(写真下)のお二人が受賞されました。

HPアドレス <http://duan.jp/jp/index.htm>

受賞作文紹介

『行動違えど気持ちは同じ-

「何の用事」から見た中日友好』

劉良策(吉林大学)

「何の用事」何の変哲もない言葉だ。ある日、私は、日本人の友達に、翌日の約束の時間について、確認の電話をかけた。「明日のサッカー、何時からだっけ。」「朝九時。でも、ごめん。俺ちょっと用事があって、行けそうにないんだ」そこで、私は無意識にこう言った。「えっ、用事って、何の用事」「ちょっと...」彼は言いさして、黙り込んだ。私は多分辛いことがあるのだろうと少し気になったが、電話のやり取りには、特に違和感を覚えなかった。しかし数日後、突然彼に尋ねられた。

「おれの電子辞書に書いてあるんだけど...」彼の話だと、日本人は誘いや約束などを断る時、「ごめん、ちょっと用事があって...」というのが普通だ。しかし、それは中国人にとって誠意のない理由に聞こえ、自分が相手に大事にされていないと感じてしまう。それで、中国人はたまたま、「何の用事」かと聞く。「劉さん、これ、どう思う」その時私は先日の電話を思い出した。確かに自分も「何の用事」かと聞いた。もしや、それは、私が彼の返事に誠意がないと誤解されたのではないか。不安に思った私は、自分の気持ちを精いっぱい説明した。

「違うよ。そんなつもりで『何の用事』と聞いたんじゃないよ、それは、少々驚いたようだった。「えっ、習慣。でも、日本人はあまり聞かないよ。プライバシーに関することだから聞くことは余計なお世話になるし」その話を聞いて、私はやっと分かった。自分が無意識に口にした「何の用事」に、彼はきつと違和感を覚え、ずっと気にして、それで、私にわざわざ聞いたのだろう。相手のことを大事に思っているからこそ、中国人は「何の用事」かと聞く。

(続きは、受賞作品集「国という枠を超えて」日本僑報社刊)

お読みにになりたい方は、協会に残部が若干ありますのでご連絡くださればお送りいたします。)

○●○第一回国際教育交流会議を開催○●○

各地各県での取り組みを深化

2007年12月7日(金)午後2時より、フロンティア青山(公立共済組合東京宿所)において、第1回国際教育交流会議が開催されました。

生井理事長は、挨拶の中で、財団の事業が県教組そして教育現場の活動につながりを持ち、さらに又、現場の活動が財団の事業に反映するという関係を作り上げることが必要である。教育の交流を通じて、人類の共生、そして自然と人との共生をめざす継続的な活動をしていきたいと述べました。

★国際交流における教育の役割

座長に加藤良輔神奈川県教組委員長があたり、早速「国際交流における教育の役割」と題した荒木重雄氏(社会環境フォーラム21代表・元NHK国際局チーフディレクター)の講演に入りました。荒木氏は、安東自由大学に参加した経験を踏まえ、グローバル化や西欧の合理主義では解決できない、東アジア発展の共通基盤として、己を治め、自然を収めるといった儒教文化圏の存在や、アジア的価値観の可能性について述べられました。又、国際交流においては、知ること、教えることの重要性を指摘されました。国際的紛争についても、民族や宗教それぞれで対立することはなく、イスラム圏を例に、経済的・政治的利害が背景にあると具体的に話されました。何のために国際交流をするのか、それは地球的課題を知ること、私たち一人ひとりにながてできるかを動機付ける、感性と想像力を養うことではないかと講演は締めくくられました。

★各県の取り組み

続いて、各県担当者からの報告に移り、高知からは、解放教育を基盤にした在日外国人の子弟への差別や中国残留孤児の裁判支援などの取り組み、中国安徽省との国際交流が紹介されました。三重県立昇高校からは、「韓日」高校生交流の生き生きとした高校生交流の様子が語られました。静岡からは、11回に渡るオーストラリア教育交流で、ホームステイや地方分権の経験が生かされていること、又浜松、磐田などのブラジル学校や多文化交流について、現状の報告がありました。神奈川からは、各地区の教育研究所が活動を担っていること、湘南地区では、バスケットの高校生交流が17回を数えていることなどが紹介されました。東京からは、ニューカマーや在日の現状が報告され、高校進学についての都教委交渉の様子などが紹介されました。千葉からは、日朝交流で集めたカンパを朝鮮学校の教育支援にあてている取り組みが紹介されました。山梨からは、組合が提起し、教育委員会と協力して実施している韓国忠清北道との派遣交流について資料が提出されました。群馬からは、児童数の減少の進む朝鮮学校との交流を今後は、民族教育を支援する集いとして、幅広く行政にも訴える活動として、継続していくとの報告がありました。愛知からは中国江蘇省教育科学技術協会との交流内容として、共通課題として「道徳」問題、塾、学習時間、競争の実態について意見が交わされました。また中国からは給食費未納についての質問が出たそうです。参加県からは、共通の課題などが多いとの感想がありました。

今後の国際教育交流会議の世話人として、加藤神奈川県教組委員長が選出されました。最後に、黒田常務理事から閉会挨拶があり、第1回国際教育交流会議は無事終了しました。



左は仮面舞踏 安東河回村('07.9撮影)